

## ウ 巻き狩り猟

勢子と待ちに分かれ、勢子が追い出したヒグマを待ちが捕獲する方法です。グループで行動するので、全体を統率し、現場の状況を熟知したリーダーが必要です。メンバーはリーダーの指示に必ず従うようにします。巻き狩りでは仲間の連帯感が大切ですが、同時に危険も伴いますので、お互いに危険な行動を注意できる信頼関係が必要です。

猟場では、あらかじめ、見切り（ヒグマの居場所を確認）をしておくのが確実です。また、その際に、見切りをしながら、待ちの配置を決定します。ヒグマの場合は、追い上げる方法で巻き狩りをする 경우가多く、尾根上を中心に、ヒグマの通り道に待ちを配置します。ただし、風向きなどの状況によっては、風下に待ちを配置し、追い下げで行うこともあります。

待ちは、お互いに隣の位置を確認し、矢先の安全を確認します。その後は、決して無断では動かず、場所を動くときには必ず、周りの人に確認をします。配置についてならば、話をしたり、動いたりせず、気配を消して静かに待ちます。待ちの配置が終了したところで、勢子が追い出しを開始します。

勢子は、できるだけ目立つ服装を着用します。複数の勢子で追い出すときには、お互いの位置を確認しながら、慎重に追い出しをします。樹木が混み合ったところや見通しの悪いところでは、ヒグマが隠れていることもありますので、周りに十分気を配ります。普通は、勢子が音や声を立てながら追い出しをしますが、忍びも兼ねて静かに歩く方法もあります。この場合は、待ちの場所に近づいてきたら、音を出して位置を知らせるようにします。

待ちは、勢子とヒグマを間違えないように、ヒグマの姿をきちんと確認してから銃を構えるようにします。勢子も発砲音が聞こえたならば、銃を構えて止まり、待ちに撃たれたヒグマが戻ってくる場合に備えます。発砲があっても、指示があるまでは、待ちと勢子は、それぞれの持ち場を離れたり、無断で動いてはいけません。待ち解除の連絡を受けたならば、速やかに脱包して集合します。

### 【捕獲熟練者の意見 2-1】

- ・巻き狩りをしようとするところにクマがいるかどうかの確認が重要。クマに気づかれないように見切りをする。リーダーの指示に従うことが大切。  
勢子は目立つ服装と声を出すことを忘れない。  
待ちは、矢先に十分注意する。複数の待ちがいる場合には、隣の待ちの上のクマは絶対に撃たない。  
(続く)

## 【捕獲熟練者の意見 2-2】

(続き)

- ・クマは追い上げ、シカは追い下げる。勢子は複数で音を立てながら歩く。待ちは木を後ろにして決して動かない。動かすのは目だけにする。
- ・よく通る場所の近くに待ちを配置する。シカに比べて待ちを大きく配置する。勢子は発砲音がしたら銃を構えて動かない。クマが戻ってくることがある。無線機をうまく使う。リーダーを1人にする。
- ・少人数(2-3人)で実施する。  
クマの通り道を把握して、一人が足跡を忍びで追う。残りは尾根伝いに先回りをして待ちをかける。  
待ちが多いと、クマに臭いを取られて戻り、勢子をかわして逃げてしまうことがある。
- ・リーダーが重要。通り道に人を配置する。クマも明るいところには行かない。待ちは見通しが利くところで待つ。木の上でもよい。決して動かず、ヒグマとの距離が近づいたら無線機も使わない。クマの姿を確認してから、銃を構えて安全装置を外すようにする。勢子は笛などで音を出し、ヒグマがいそうな場所をチェックしながら、足跡を追う。
- ・待ちを通り道に配置する。暗いところ(針葉樹が多いところ)に重点的に配置する。勢子が忍びを兼ねる場合には、基本的に静かに歩く。近くなったら撃たれないように声を出す。  
待ち同士の位置が大切。矢先の危険があるので基本的に移動しない。移動するときは無線で必ず連絡する。待ちは立木を前に置いて待ち、絶対に動かない。  
いつでも撃てるような準備が必要だが、安全装置をかける。矢先に注意する。

#### (4) 有害鳥獣捕獲での捕獲技術

##### ア 安全の確保

有害鳥獣捕獲は狩猟に比べると、人家近くや人の活動区域で銃器を取り扱うことが多くなります。そのため、安全面については一層の注意が必要です。

あらかじめ現場の地形・地物等の状況を把握し、どのような向きであれば安全な発砲ができるか確認しておきます。同様に、巻き狩りや追い出しを行う場合には、周囲に危険が及ばないようにヒグマが逃げる方向を考慮する必要があります。

実際の発砲にあたっては、改めて矢先に気をつけなければいけません。特に、夏場は藪が茂り、見通しが効かなくなります。ヒグマに突然遭遇するようなケースも出てきますが、決してあわてず、きちんとヒグマの姿を確認してから、銃を構えるように心がけます。さらに、ヒグマは他の動物と違って、半矢にしたときの危険が高い動物ですので、確実に仕留められる状況でなければ発砲すべきではありません。

##### イ 巡回による捕獲

銃器による捕獲では、その使用が日の出から日没に限定されていることに加えて、巡回を行っても、ヒグマを捕獲できる場面に遭遇する機会は限られています。そのため、少しでもヒグマに遭遇する機会を高めるには、まずはヒグマが出没している時間帯を把握することが大切です。

例えば、農地に出没して被害を引き起こすケースでは、朝と夕方にそれぞれ見回りを実施することで、ヒグマが出没しているのが日中あるいは夜間であるのかを知ることができます。また、捕獲熟練者の中には、足跡や食痕などの状況から、どのぐらい前に出没していたのかを判断している人もいます。その結果、ヒグマの行動が夜間に集中しているようであれば、わなの使用を検討することも必要です。ただし、夜間に出没している場合でも、実際には夕方から動き始めたり、早朝に山に戻ることも多いので、こうした時間帯に巡回を実施するのも一つの方法です。

巡回の方法にも工夫の余地があります。多くの場合、ヒグマも周囲に警戒して出てきているので、音や臭いなどでヒグマに気づかれないようにすることが重要です。例えば、車を手前に止めておいて静かに歩いたり、風向きを考えて風下から回るだけでも遭遇の可能性は高まります。

### 【捕獲熟練者の意見】

- 基本的に朝早く、日の出ぎりぎりに見回りをする。（日の出前発砲は禁止）
- 早朝と夕方に遭遇することが多い。
- 人里から遠い畑では昼間に入ることもある。
- 食べ跡で新旧を判断する。
- 朝と夕方にまわり、毎回足跡を消しておく。
- 何回か巡回を繰り返すと出ている時間や出入り口が分かってくる。
- 車を手前に止めて歩く。近くに行ったら 2 - 3 分静かにしている。風向きが大切。
- 複数で来て、わざともう一人が音を出しながら帰る。クマに戻ったと安心させる。

#### ■畑の巡回



## ウ 待ちによる捕獲

待ちによる捕獲では、前項で述べた出没时间に加えて、出没时间を把握することが重要になってきます。特に、農地での被害など繰り返し出没时间が見られる状況では、ヒグマが入り出す場所が限定されてきます。

出没时间を把握した上で、周辺の見通しのよいところで待ちのポイントを探します。安全面やヒグマに気づかれにくいという点から、地形的に高くなっている場所が理想です。捕獲熟練者の中には、近くの木を利用して、その上で待つ人もいます。

待っているあいだは、音や臭いを出さないようにして気配を消します。風向きも重要です。ヒグマに対して待ちの場所が風上になるようでしたら、気づかれる可能性も高いので、無理をすべきではありません。また、出没时间が予想される時間よりも2～3時間ぐらい前から待ちの場所につくようにするのがよいようです。

### 【捕獲熟練者の意見】

- ・ 出入り口から足跡をたどり、待ちのポイントを探す。
- ・ 15時頃から動き出すことが多いので、昼過ぎから待ちをかける。
- ・ ヒグマに人間の臭い感じとられている場合は、臭いの強い草をつけて人間の臭いを消す。
- ・ 出入り口に糸や草の茎を置いて出入りの状況（向き）を確認する。

■ 出入り口に草を置く例



通り道に草を置く

## エ 巻き狩りでの捕獲

ヒグマの居場所が分かり、かつ十分な人数がいるときには巻き狩りによる捕獲も有効です。基本は狩猟での巻き狩り猟と同じですが、人の生活圏が近いことや、見通しが悪い状況を考えて、慎重に実施する必要があります。特に、平坦な地形のところでは、勢子や待ちの配置、矢先に十分注意します。

## オ 注意が必要な事例

### ① トウモロコシ畑での対応

トウモロコシは農作物の中で最もヒグマによる被害が多い作物です。トウモロコシは被害が発生する時期（8月後半～10月）になると、人の背丈よりも高く成長しており、見通しも悪くなります。また、特にデントコーンの場合、数百メートル四方の大きさの畑もあり、日中でもヒグマが畑の中に潜んでいることがあります。

#### ■デントコーン畑の巡回



### ② 家畜被害への対応

ヒグマが家畜を襲った場合には、一度に全部を食べず、土に埋めておいて繰り返し食べにくることがあります。ヒグマは餌に対する執着心がとても強い動物なので、このような場所に人が近づくと、餌を守るために襲ってくる場合があります。

家畜の被害に対応する場合には、ヒグマが襲ってくるかもしれないということを頭に入れて、近づくときには、周りを慎重に確認しながら、風下から近づくようにします。

## (5) ヒグマの狙い方

### ア 撃つときの条件

ヒグマの場合は、安全かつ確実に仕留められる状況で撃つということが最も重要です。野外ではその時々により、見通しの良さや射撃時の体勢などの条件が異なるため、一概にどの距離で撃てば良いということはありません。ただし、普段から射撃場などで自分が確実に狙える距離を把握しておき、それよりは近い距離でなければ発砲すべきではありません。安全であるからといって、当てる自信のない遠い距離にいるヒグマを撃つようなことは絶対に避けるべきです。

確実に仕留めるという点では、当然ヒグマとの距離が近いほうが有利であり、捕獲熟練者の多くが、「できるだけ近づいて撃つ」ということを述べています。忍びで近づく場合にはどれだけ近づくか、待ちをかけている場合にはどこまで寄せるかということがポイントになります。

しかし、当然、ヒグマとの距離が近いほど、ヒグマに気づかれる確率も高くなってきます。どこまで近づくか、あるいはどこまで寄せるかの判断は、ヒグマの様子をみながらの駆け引きになります。例えば、ヒグマは周りの臭いを感じとるために、鼻を嗅ぐような仕草をすることがあります。これは、ヒグマが周りを警戒している証拠ですので、このような行動が見られたときには、一旦止まりしばらく様子を見ます。ヒグマがさらに警戒を強めたときには、立ち上がって周囲を確認しようとする場合があります。このときには、すでに気づかれている可能性も高く、多くの場合、ヒグマは逃げてしまいます。

安全を確保するという点では、ヒグマとの位置関係も大切です。最も安全なのは谷を挟んで反対側にヒグマがいる場合です。一方、同じ斜面にヒグマがいて、かつ自分よりもヒグマが上にいる場合は、撃つのを控えるほうがよいでしょう。捕獲熟練者の間でしばしば聞かれる言葉に「上にいるヒグマは撃つな」ということがあります。これは、ヒグマを撃ってもすぐその場に倒れるとは限らず、仮にヒグマが向かってきた場合には勢いがついて危険な状況になるためです。

また、万が一、撃たれたヒグマが向かって来た場合を考えると、ヒグマとの間に遮蔽物があるほうが、安全を確保することにつながります。特に、至近距離で撃つ場合は、太い木を楯にして撃つなどの工夫が必要です。

最後に、最も大切なのは、気持ちを落ち着けて撃つということです。気持ちが高ぶり、興奮している状態では、弾の命中精度も落ちますし、冷静な判断ができなくなります。安定した体勢を確保したうえで、一呼吸おいてから撃つだけの余裕が必要です。



### 【捕獲熟練者の意見】

- 近づけて撃つ。自信のある距離で撃つ。
- クマの様子を見ながらさらに近づくかどうかを決める。  
できるだけ至近距離（50m 前後）で撃つ。
- ほとんどは 100m 以内で撃つ。
- クマから目を放さないことが大切。両目をあけて撃つ。
- 下からは撃たない。クマと同じか高い場所から狙う。
- 自分より上にいるときは撃たない。上にいるものは足元に落ちてくる。
- 遠いものは撃たない。逃げるクマは撃たない。向かってくるクマを撃つ。
- クマとの間に細い木がたくさんある場所を挟んで撃つようにする。クマが突進しにくい。
- 立木に体や銃をつけて安定した姿勢で撃つ。
- 自分で確実に撃てる状況で撃つ。息を整えてから立木などに依託して撃つ。
- クマが向かってきても大丈夫なように、立木などを盾にして撃つ。
- クマが動いているときは、動きを先読みして構える。
- どこを狙っているかを覚えていなければいけない（冷静でいること）。



## イ 急所と狙い場所

確実にヒグマを捕獲するためには、急所を狙うことが重要です。逆に、急所をそれると、傷を負ったまま逃げられることがあり、この場合には獲物を回収することが難しくなります（最終的に死亡することもあります）。

ヒグマの急所としては、下の2つの部位が挙げられます。

- ・脳や脊髄などの中枢神経
- ・胸部（心臓、肺周辺）

前者の中枢神経については、正しく着弾すればその場に即倒し、動けなくなります。ただし、以下の理由により、よほど条件がよいときを除いてはこの部分を狙うことは避けたほうがよいでしょう。

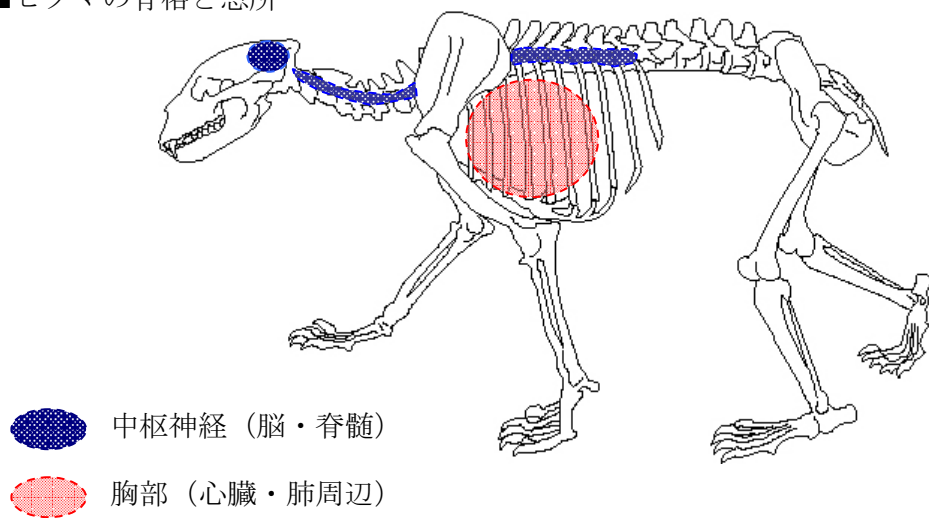
- ・脊髄が通る首の骨（頸椎）や腰の骨（胸椎、腰椎）は人間の拳ぐらいの太さであり、数センチずれただけで、全く致命傷にならないこともある。
- ・ヒグマは頭や首を動かすことが多いため、着弾箇所がずれる可能性が高い。

一方、後者の胸部については、心臓・肺を狙うことが基本となりますが、仮に着弾箇所がずれても、周辺には大血管や胸椎があるため、これらのいずれかが損傷すれば確実に死亡することになります。狙い場所としての範囲が広がるため、心理的にも狙いやすくなります。狩猟者の間では、クマの急所を表す言葉として、「アバラ3枚目」という言葉がありますが、これはまさに胸部の心臓や肺の位置にあたります。

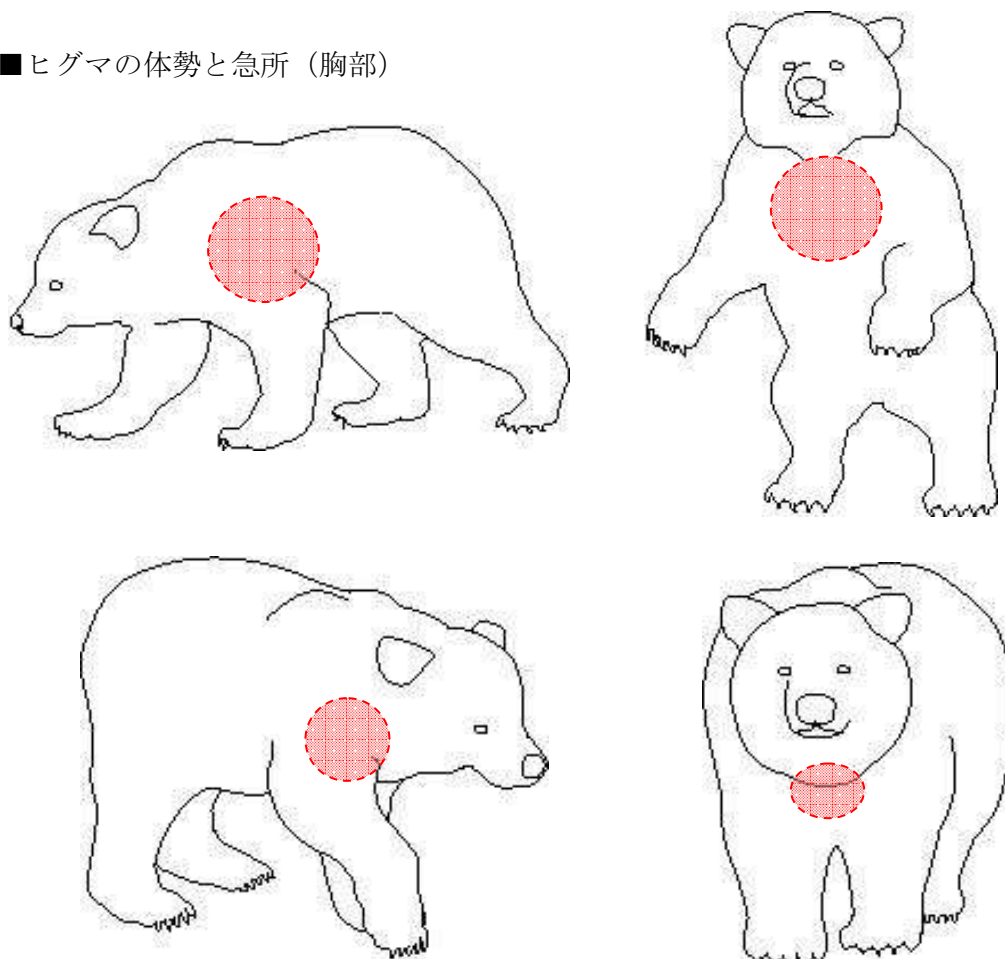
ただし、心臓や肺に着弾したときには即倒するとは限らず、死亡までに多少の時間を要することがあります。そのため、着弾した後のヒグマの動きを十分予測するとともに、安全が確保できる距離や位置から発砲することが大切です。

また、ヒグマがどのような体勢でいるかによって、急所の狙いやすさも変わってきます（次頁参照）。特にヒグマの場合は肉や骨が頑丈ですので、着弾場所や方向によっては、骨にはじかれたり、弾が途中で止まったりして、急所まで到達できないことがあります。例えば、胸部を狙うときには肩甲骨（肩の骨）に注意しなければいけません。この骨は大きく頑丈ですので、着弾の方向によっては弾頭が胸部に到達するのを妨げることがあります。このようなことを防ぐために、貫通力の強い弾頭を使用するのも一つの方法ですが、まずは急所を狙いにくい体勢のときには、決して無理をせず、狙いやすい体勢になるのを待つのがよいでしょう。

■ヒグマの骨格と急所



■ヒグマの体勢と急所 (胸部)



左上：横向きは最も狙いやすい。

左下：肩甲骨に注意する

右上：立っているときも急所を狙いやすいが、立っている時間は短い。

右下：同じ高さからの正面は狙い場所が少ない。頭部は跳弾があるので避ける。